

令和6年

鳥取県人口移動調査結果
【令和6年1月～令和6年12月】

令和7年3月11日公表

鳥取県総務部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の人口動態	
1 概況	4
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	4
(2) 月別自然動態	5
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	5
(2) 月別県外転入・転出	6
(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別転入・転出	6
(4) ブロック別の県外転入・転出	8
(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過	8
(6) 年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出	9
II 市町村別人口動態	
1 概況	10
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	11
(2) 男女別自然動態	12
3 社会動態	
(1) 市町村别社会動態	13
(2) 県内移動	14
(3) 県外転入・転出	15
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出	16
<参考>外国人の人口動態	20
参考資料	
1 鳥取県の人口動態の推移（S30～R6）	21
2 年齢10歳階級別県外転入者数の推移（H16～R6）	22
3 年齢10歳階級別県外転出者数の推移（H16～R6）	23
4 県外転出入者数の推移（令和6年移動者総数上位6都道府県）	24

用語の説明

1 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

2 移動

- (1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

3 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

4 移動者の年齢

令和6年10月1日現在の満年齢による。

5 自然増減数

出生数から死亡数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

6 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

7 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

8 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

9 ブロック別区分

北海道…北海道

東北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

10 地区別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

11 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。

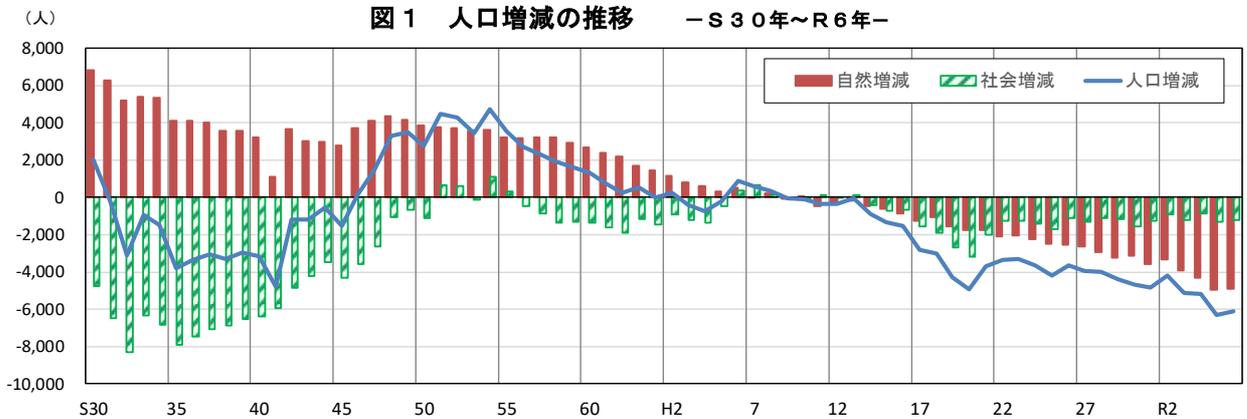
調 査 結 果 の 概 要

I 鳥取県の人口動態

1 概況

1年間の人口動態は、6,123人の減少となり、減少幅は前年に比べ170人の減少

1年間の人口動態をみると、自然増減は4,918人の減少、社会増減は1,205人の減少、合計6,123人の減少となり、人口増減の減少幅は前年に比べ170人縮小した。(図1、統計表第1表)



2 自然動態

(1) 自然動態の推移

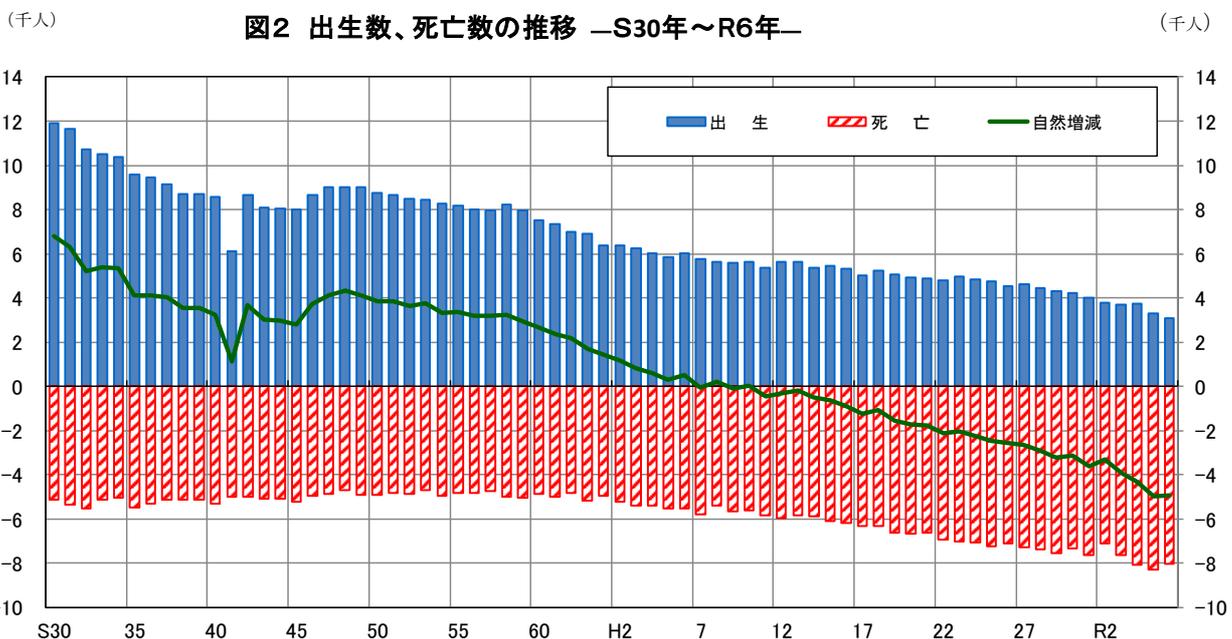
出生数は3,108人となり、昭和30年以降で過去最少を更新
 死亡数は8,026人となり、3年連続8,000人を超過
 自然増減は4,918人減少し、平成11年以降26年連続の減少

出生数は、3,108人で前年に比べ208人減少し、過去最少を更新した。

昭和30年の11,901人から概ね減少傾向であり、昭和35年に1万人を割り込み9,000人台となり、昭和62年に6,000人台、平成5年に5,000人台、平成20年に4,000人台、令和2年からは3,000人台となっている。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後で推移していたが、それ以降は増加傾向となり、平成15年には6,000人台、平成23年に7,000人台、令和4年に8,000人台となり、令和6年は8,026人で前年に比べ270人減少したが、3年連続8,000人を超過した。

自然増減は4,918人の減少となり、減少幅は前年に比べ62人縮小し、平成11年以降26年連続の減少となった。(図2、統計表第1表)



(2) 月別自然動態

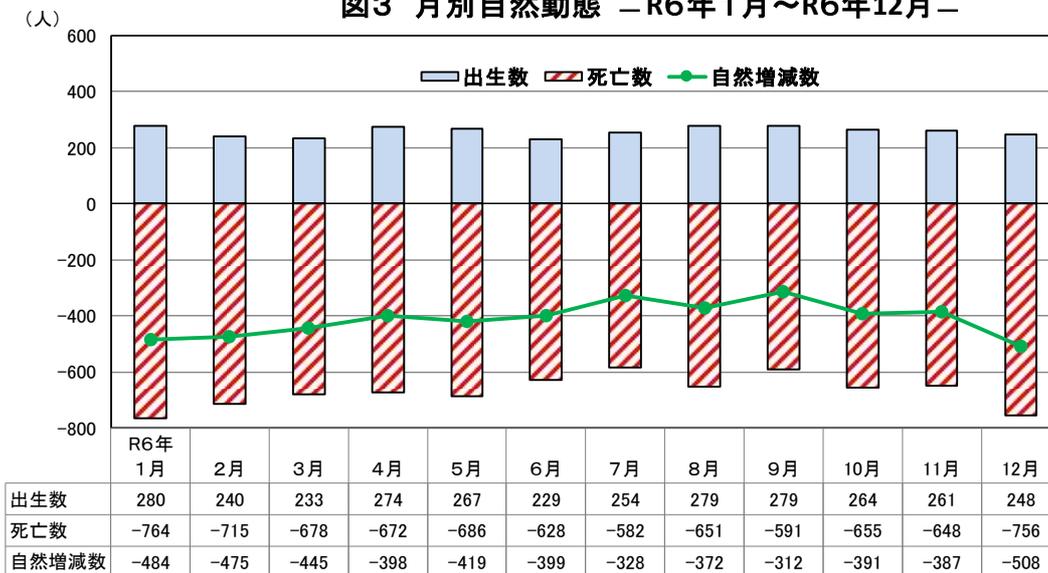
自然増減はすべての月で減少となり、減少数は12月の508人が最も多い

月別にみると、出生数は1月の280人（出生総数に占める割合9.0%）が最も多く、次いで8月及び9月の279人（同9.0%）、4月の274人（同8.8%）であった。

死亡数は1月の764人（死亡総数に占める割合9.5%）が最も多く、次いで12月の756人（同9.4%）、2月の715人（同8.9%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は12月の508人が最も多かった。（図3、統計表第2表）

図3 月別自然動態 –R6年1月～R6年12月–



3 社会動態

(1) 社会動態の推移

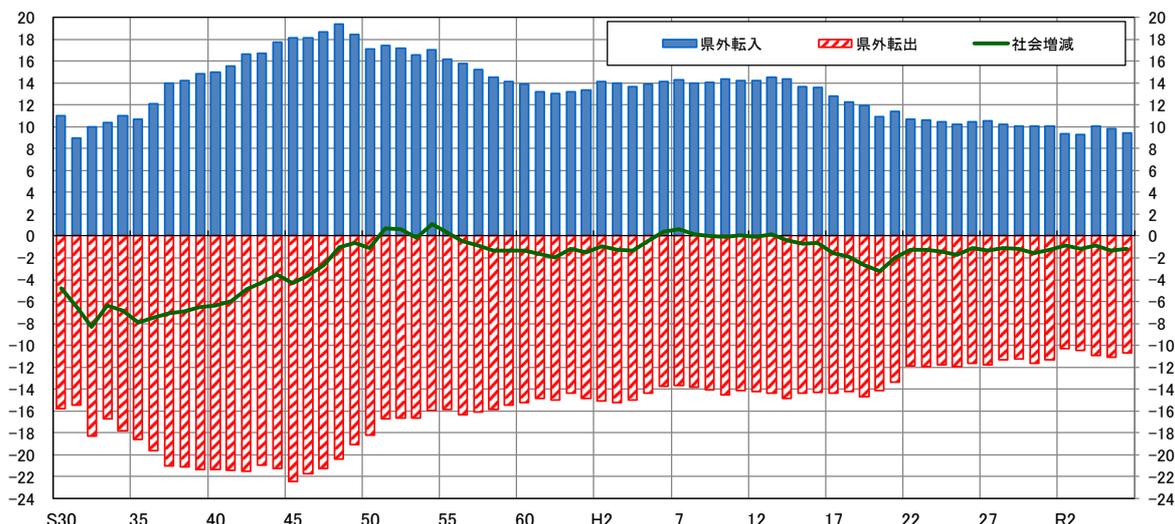
社会増減は、1, 205人減少し、平成14年以降23年連続の減少

1年間の県外転入者は9,448人、県外転出者は10,653人で社会増減は1,205人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,127人で実移動者総数は25,228人であった。

前年と比べると、県外転入者が355人減少、県外転出者が463人減少し、社会増減の減少数が108人縮小した。また、県内移動者が510人減少し、実移動者総数が1,328人減少した。

社会動態の推移をみると、県外転入者は昭和48年の19,395人、県外転出者は昭和45年の22,438人をピークに転入・転出とも減少傾向となり、社会増減数は平成14年以降23年連続で減少した。（図4、統計表第1表、統計表第4表）

図4 県外転出入者数の推移 –S30年～R6年–



(2) 月別県外転入・転出

年間県外移動者数は、3月及び4月の2か月間で全体の40.6%を占める

月別にみると、県外転入者は4月の1,875人（県外転入者総数に占める割合19.8%）が最も多く、次いで3月の1,626人（同17.2%）、7月の705人（同7.5%）であった。

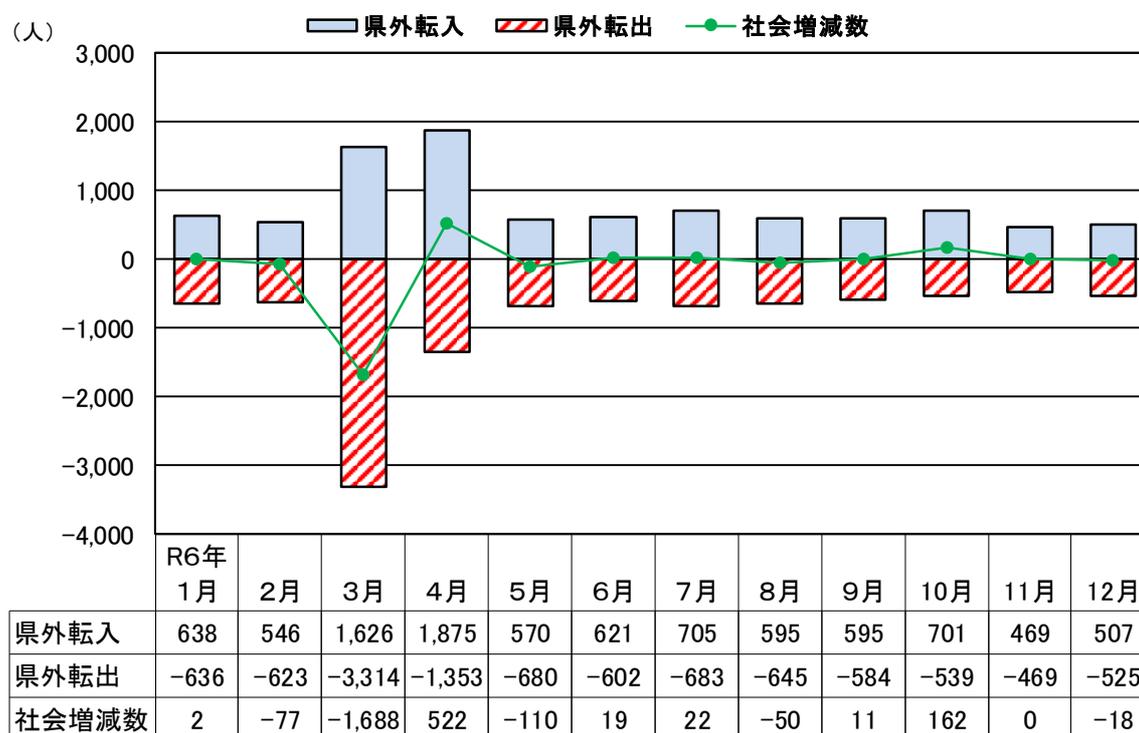
県外転出者は3月の3,314人（県外転出者総数に占める割合31.1%）が最も多く、次いで4月の1,353人（同12.7%）、7月の683人（同6.4%）であった。

県外転出入により、3月が最も減少（1,688人）し、4月が最も増加（522人）した。

年間県外移動者総数をみると、3月及び4月の2か月間で8,168人となり、全体（20,101人）の40.6%を占めている。

（図5、統計表第3表）

図5 月別県外転出入者数 — R6年1月～R6年12月 —



(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別転入・転出

県外転入者数は外国の1,433人、県外転出者数は大阪府の1,255人が最も多い

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の1,433人（男性579人、女性854人）が最も多く、次いで島根県の1,197人（男性620人、女性577人）、大阪府の908人（男性464人、女性444人）であった。

県外転出者は、大阪府の1,255人（男性627人、女性628人）が最も多く、次いで島根県の1,064人（男性578人、女性486人）、東京都の1,013人（男性557人、女性456人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県の620人が最も多く、次いで外国の579人、大阪府の464人であり、県外転出者は、大阪府の627人が最も多く、次いで島根県の578人、東京都の557人であった。

女性の県外転入者は外国の854人が最も多く、次いで島根県の577人、大阪府の444人であり、県外転出者は、大阪府の628人が最も多く、次いで兵庫県の492人、島根県の486人であった。

（図6-1、図6-2、図6-3、統計表第9表）

図6-1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(総数)

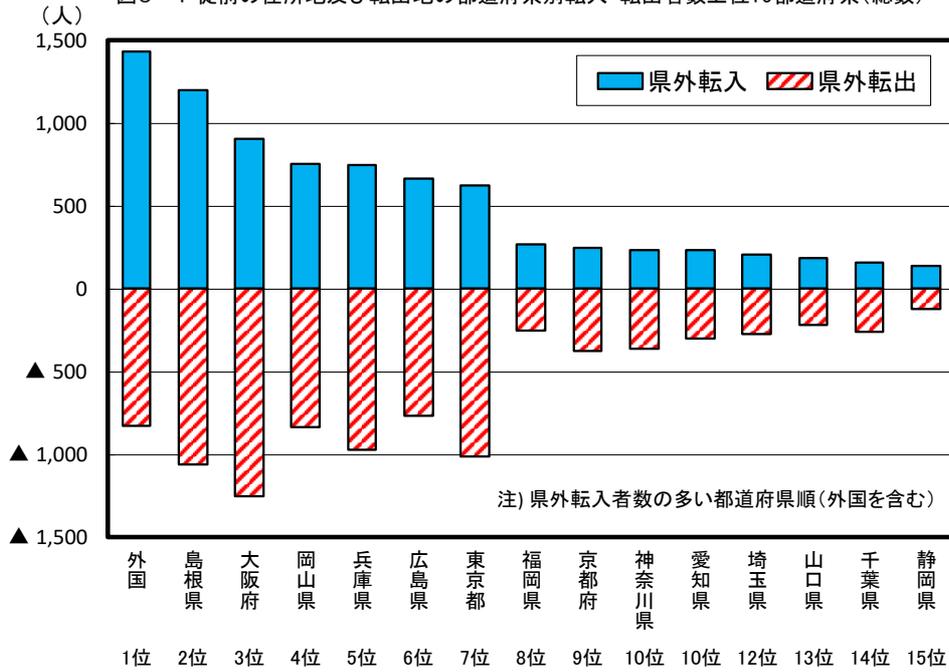


図6-2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(男)

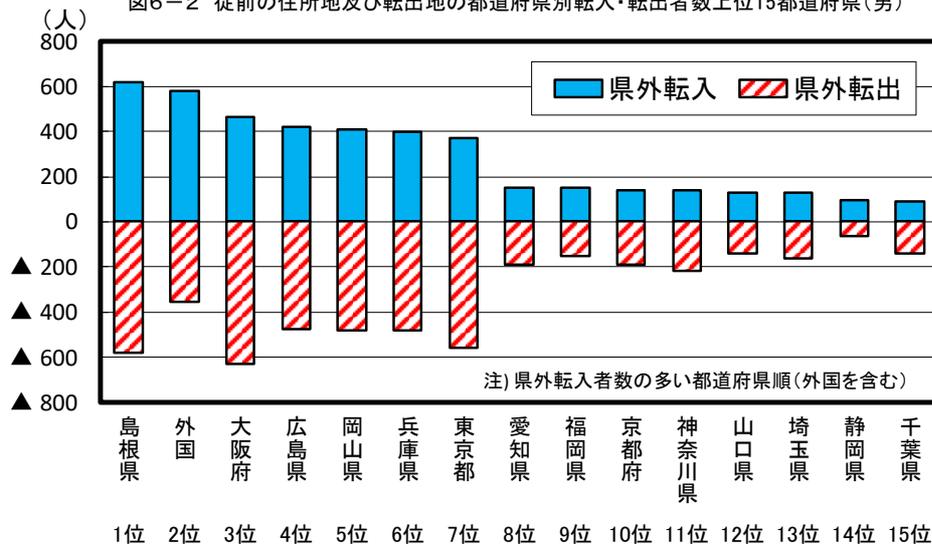
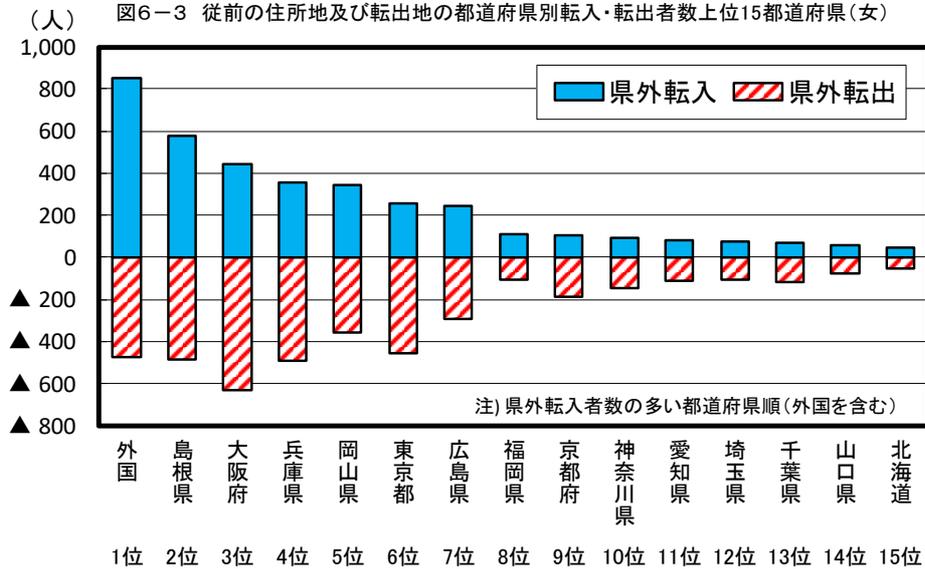


図6-3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(女)



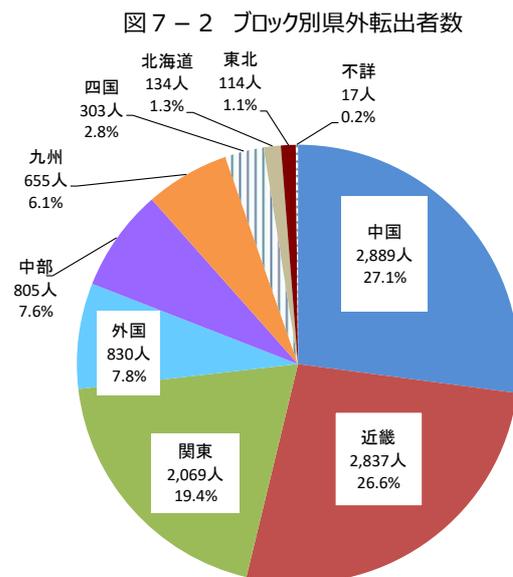
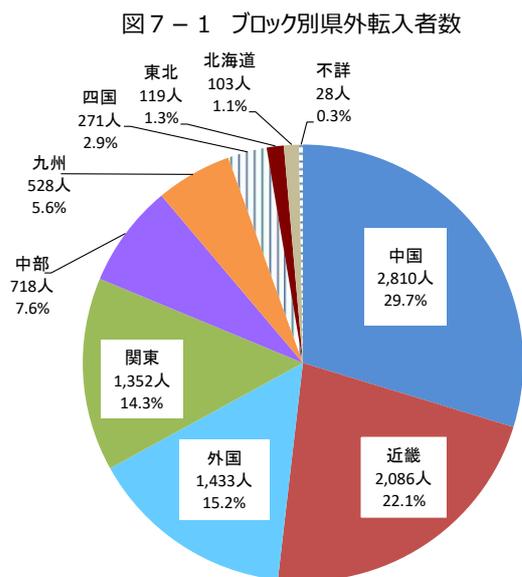
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの2,810人（男性1,586人、女性1,224人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,086人（男性1,110人、女性976人）、外国の1,433人（男性579人、女性854人）であった。

県外転出者は中国ブロックの2,889人（男性1,677人、女性1,212人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,837人（男性1,428人、女性1,409人）、関東ブロックの2,069人（男性1,175人、女性894人）であった。

(図7-1、図7-2、統計表第9表)



注) ブロック別の構成都道府県は、以下のとおり。

- 北海道: 北海道
- 東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 関東: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中部: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国: 島根、岡山、広島、山口
- 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
- 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過

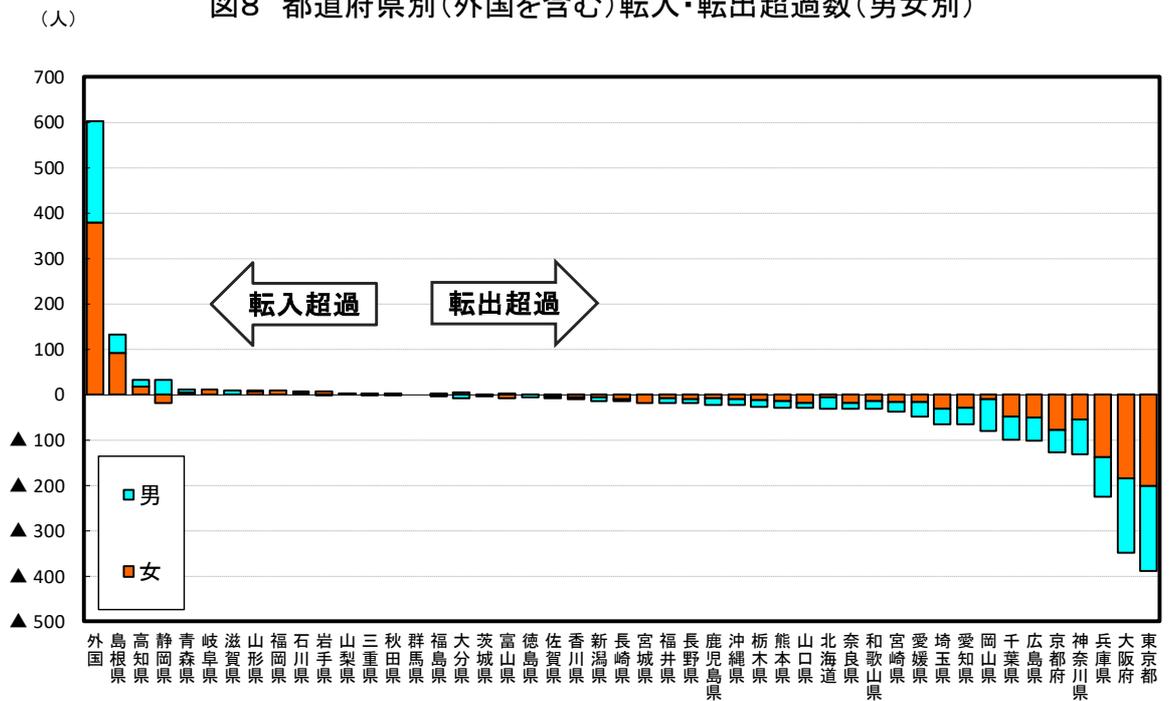
転入超過数は外国の603人、転出超過数は東京都の389人が最も多い

転入超過数は、外国の603人（男性223人、女性380人）が最も多く、次いで島根県の133人（男性42人、女性91人）、高知県の32人（男性14人、女性18人）であった。

転出超過数は、東京都の389人（男性187人、女性202人）が最も多く、次いで大阪府の347人（男性163人、女性184人）、兵庫県の224人（男性86人、女性138人）であった。

(図8、統計表第9表)

図8 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数(男女別)



(6) 年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出

転出超過数は、20～24歳の754人が最も多い

年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,121人：男性の県外転入者総数に占める割合が21.8%、女性951人：女性の県外転入者総数に占める割合が22.1%）、次いで男女とも25～29歳（男性824人：同16.0%、女性797人：同18.6%）であった。

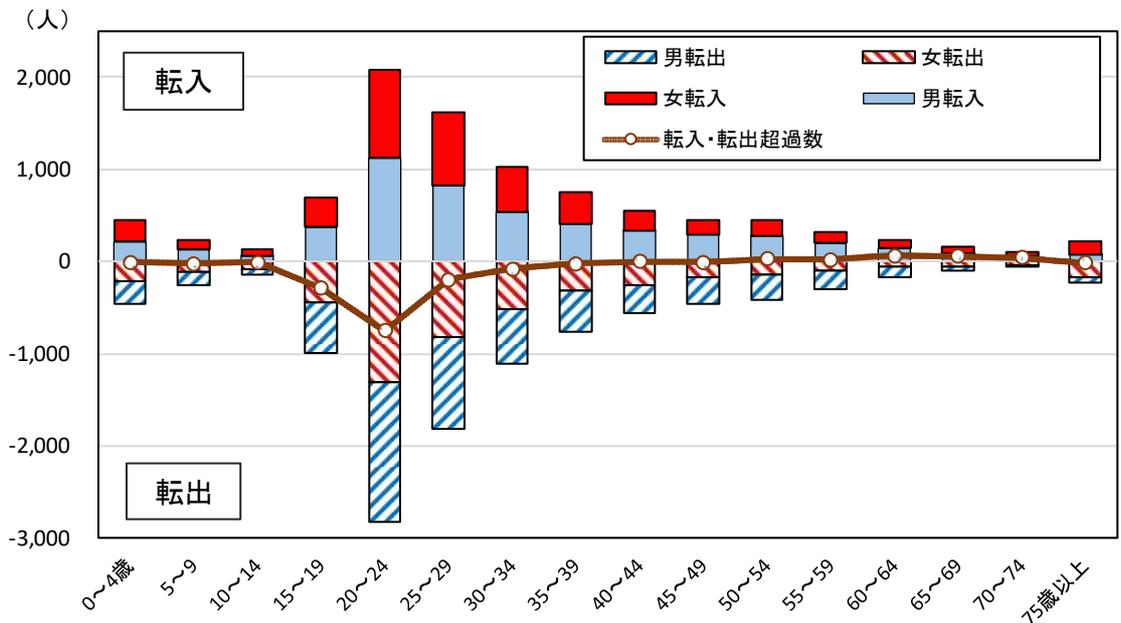
県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,516人：男性の県外転出者総数に占める割合が25.9%、女性1,310人：女性の県外転出者総数に占める割合が27.2%）、次いで男女とも25～29歳（男性1,000人：同17.1%、女性816人：同17.0%）であった。

転出超過数は、20～24歳の754人（男性395人、女性359人）が最も多い。

年間県外移動者総数をみると、20～34歳で10,480人となり、全体（20,101人）の52.1%を占めている。

（図9、統計表第4表、統計表第10表）

図9 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数



II 市町村別人口動態

1 概況

人口増減は、19市町村すべてで減少

1年間の市町村別の人口増減をみると、19市町村すべてで減少し、そのうち最も減少したのは鳥取市の1,950人（自然減少1,398人、社会減少552人）、次いで米子市の1,125人（自然減少858人、社会減少267人）であった。

また、増減率を見ると、19市町村すべてで減少し、そのうち最も減少したのは日野町の3.93%、次いで日南町の3.41%、若桜町の3.38%であった。

（表1、統計表第6表、統計表第7表）

表1 市町村別人口増減

（単位：人、%）

	自然増減			社会増減			人口増減数	人口増減率
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数		
県計	3,108	8,026	-4,918	14,575	15,780	-1,205	-6,123	-1.14
鳥取市	1,049	2,447	-1,398	4,180	4,732	-552	-1,950	-1.06
米子市	1,022	1,880	-858	4,730	4,997	-267	-1,125	-0.78
倉吉市	246	661	-415	1,204	1,329	-125	-540	-1.22
境港市	185	489	-304	1,116	1,016	100	-204	-0.64
岩美町	48	185	-137	288	289	-1	-138	-1.33
若桜町	7	73	-66	63	83	-20	-86	-3.38
智頭町	15	147	-132	163	159	4	-128	-2.17
八頭町	61	263	-202	308	365	-57	-259	-1.74
三朝町	19	126	-107	94	133	-39	-146	-2.60
湯梨浜町	114	247	-133	486	462	24	-109	-0.70
琴浦町	62	313	-251	355	480	-125	-376	-2.43
北栄町	72	235	-163	304	343	-39	-202	-1.47
日吉津村	28	39	-11	168	164	4	-7	-0.20
大山町	65	324	-259	341	341	0	-259	-1.79
南部町	38	176	-138	272	301	-29	-167	-1.67
伯耆町	46	181	-135	285	303	-18	-153	-1.50
日南町	16	113	-97	81	113	-32	-129	-3.41
日野町	5	72	-67	60	97	-37	-104	-3.93
江府町	10	55	-45	77	73	4	-41	-1.70

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減は、19市町村すべてで減少

自然増減を市町村別にみると、19市町村すべてで減少した。

最も減少したのは鳥取市の1,398人（出生数1,049人、死亡数2,447人）、次いで米子市の858人（出生数1,022人、死亡数1,880人）であった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、19市町村で減少し、そのうち最も減少したのは若桜町の25.93%、次いで日南町の25.61%、日野町の25.30%であった。

（表1、図10-1、図10-2、統計表第6表）

図10-1 市町村別自然増減数

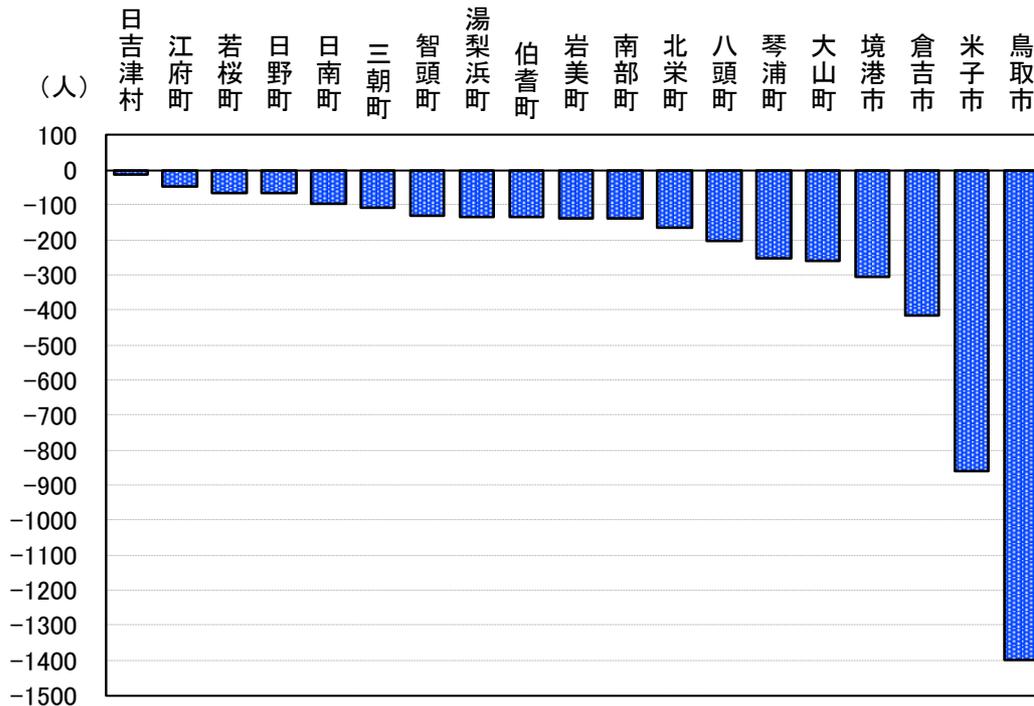
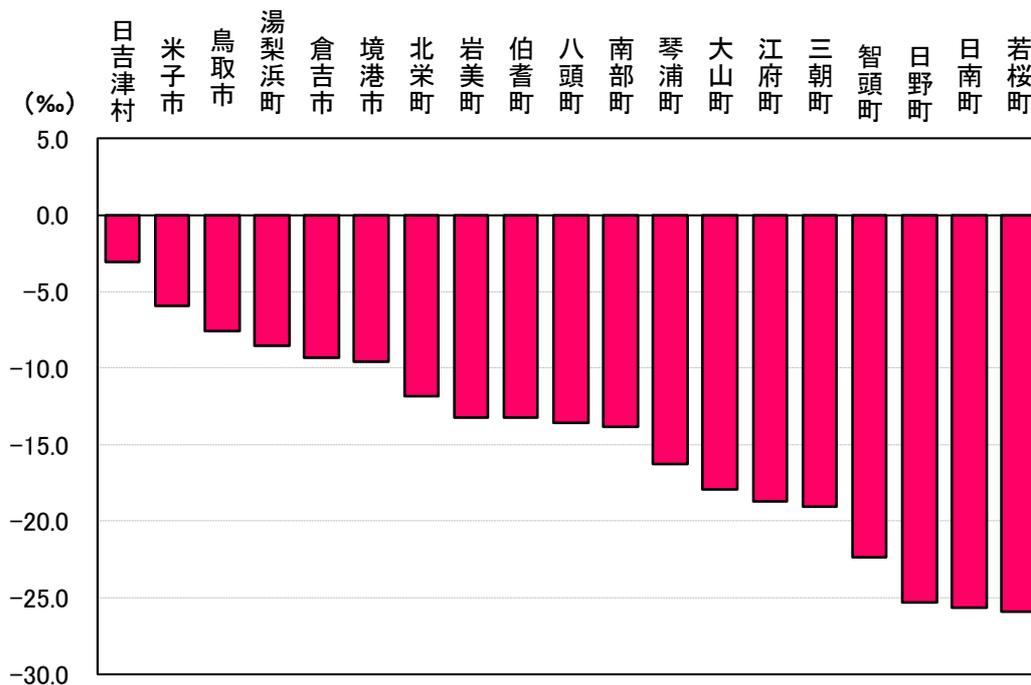


図10-2 市町村別自然増減率



(2) 男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最多

出生数・死亡数を市町村別の男女別にみると、男性の出生数は鳥取市の540人が最も多く、次いで米子市の529人、倉吉市の119人、境港市の102人であった。死亡数は鳥取市の1,204人が最も多く、次いで米子市の962人、倉吉市の330人、境港市の237人であった。

女性の出生数は鳥取市の509人が最も多く、次いで米子市の493人、倉吉市の127人、境港市の83人であった。死亡数は鳥取市の1,243人が最も多く、次いで米子市の918人、倉吉市の331人、境港市の252人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の2人、女性では若桜町、日野町及び江府町の3人、死亡数は、男女とも日吉津村で男性18人、女性21人であった。

(表2、統計表第6表)

表2 市町村別男女別自然動態

(単位:人)

市町村	実数(人)								
	自然増減			出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
県計	-4,918	-2,345	-2,573	3,108	1,597	1,511	8,026	3,942	4,084
市計	-2,975	-1,443	-1,532	2,502	1,290	1,212	5,477	2,733	2,744
郡計	-1,943	-902	-1,041	606	307	299	2,549	1,209	1,340
東部地区	-1,935	-907	-1,028	1,180	614	566	3,115	1,521	1,594
中部地区	-1,069	-518	-551	513	248	265	1,582	766	816
西部地区	-1,914	-920	-994	1,415	735	680	3,329	1,655	1,674
鳥取市	-1,398	-664	-734	1,049	540	509	2,447	1,204	1,243
米子市	-858	-433	-425	1,022	529	493	1,880	962	918
倉吉市	-415	-211	-204	246	119	127	661	330	331
境港市	-304	-135	-169	185	102	83	489	237	252
岩美郡	-137	-68	-69	48	26	22	185	94	91
岩美町	-137	-68	-69	48	26	22	185	94	91
八頭郡	-400	-175	-225	83	48	35	483	223	260
若桜町	-66	-33	-33	7	4	3	73	37	36
智頭町	-132	-53	-79	15	7	8	147	60	87
八頭町	-202	-89	-113	61	37	24	263	126	137
東伯郡	-654	-307	-347	267	129	138	921	436	485
三朝町	-107	-50	-57	19	6	13	126	56	70
湯梨浜町	-133	-59	-74	114	58	56	247	117	130
琴浦町	-251	-118	-133	62	33	29	313	151	162
北栄町	-163	-80	-83	72	32	40	235	112	123
西伯郡	-543	-252	-291	177	86	91	720	338	382
日吉津村	-11	-7	-4	28	11	17	39	18	21
大山町	-259	-113	-146	65	32	33	324	145	179
南部町	-138	-74	-64	38	15	23	176	89	87
伯耆町	-135	-58	-77	46	28	18	181	86	95
日野郡	-209	-100	-109	31	18	13	240	118	122
日南町	-97	-50	-47	16	9	7	113	59	54
日野町	-67	-31	-36	5	2	3	72	33	39
江府町	-45	-19	-26	10	7	3	55	26	29

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減は5市町村で増加し、大山町で増減なし、13市町で減少

社会増減を市町村別にみると、境港市100人、湯梨浜町24人、智頭町、日吉津村及び江府町4人の5市町村で増加し、大山町で増減なし、13市町で減少した。

最も増加したのは境港市の100人（男性21人、女性79人）、次いで湯梨浜町の24人（男性20人、女性4人）であった。最も減少したのは鳥取市の552人（男性349人、女性203人）、次いで米子市の267人（男性131人、女性136人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは境港市の3.15%、次いで江府町の1.66%で、最も減少したのは日野町の13.97%、次いで日南町の8.45%であった。

（表1、表3、図11-1、図11-2、統計表第7表、統計表第10表）

表3 市町村別社会動態

（単位：人）

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,448	10,653	-1,205	5,127	5,127	0	-1,205
市 計	7,879	8,861	-982	3,351	3,213	138	-844
郡 計	1,569	1,792	-223	1,776	1,914	-138	-361
東部地区	3,563	4,049	-486	1,439	1,579	-140	-626
中部地区	1,189	1,455	-266	1,254	1,292	-38	-304
西部地区	4,696	5,149	-453	2,434	2,256	178	-275
鳥取市	3,131	3,623	-492	1,049	1,109	-60	-552
米子市	3,331	3,778	-447	1,399	1,219	180	-267
倉吉市	618	750	-132	586	579	7	-125
境港市	799	710	89	317	306	11	100
岩美町	165	149	16	123	140	-17	-1
若桜町	38	31	7	25	52	-27	-20
智頭町	102	85	17	61	74	-13	4
八頭町	127	161	-34	181	204	-23	-57
三朝町	43	80	-37	51	53	-2	-39
湯梨浜町	164	213	-49	322	249	73	24
琴浦町	237	252	-15	118	228	-110	-125
北栄町	127	160	-33	177	183	-6	-39
日吉津村	68	71	-3	100	93	7	4
大山町	164	173	-9	177	168	9	0
南部町	100	168	-68	172	133	39	-29
伯耆町	105	146	-41	180	157	23	-18
日南町	45	48	-3	36	65	-29	-32
日野町	36	31	5	24	66	-42	-37
江府町	48	24	24	29	49	-20	4

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（-）の場合は、転出超過を示す。

注2) 地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

図11-1 市町村別社会増減数

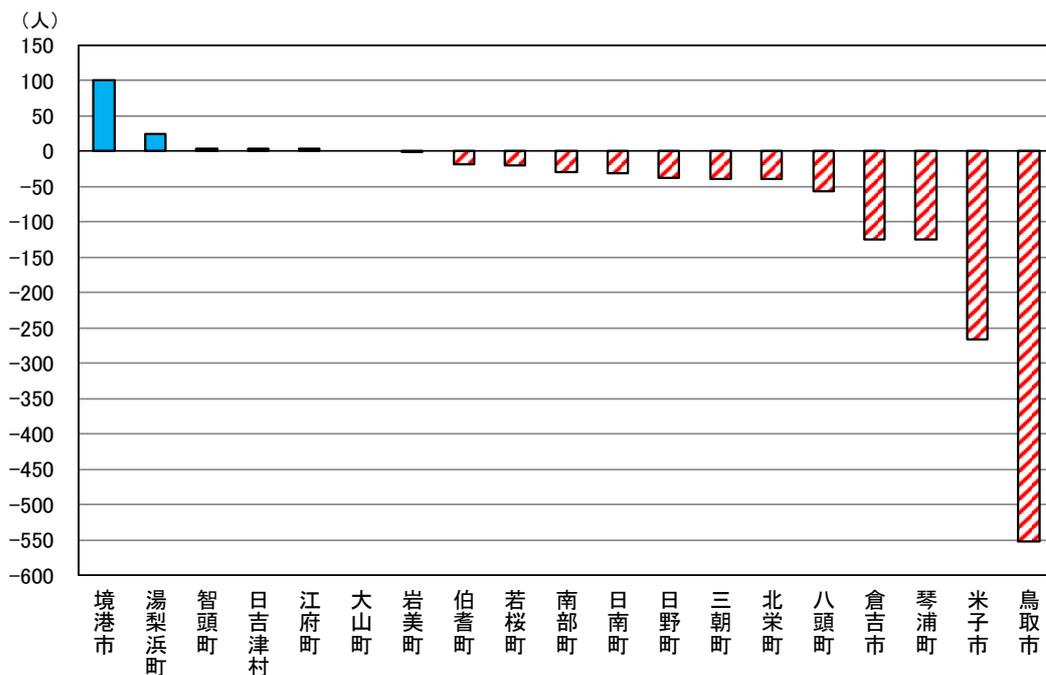
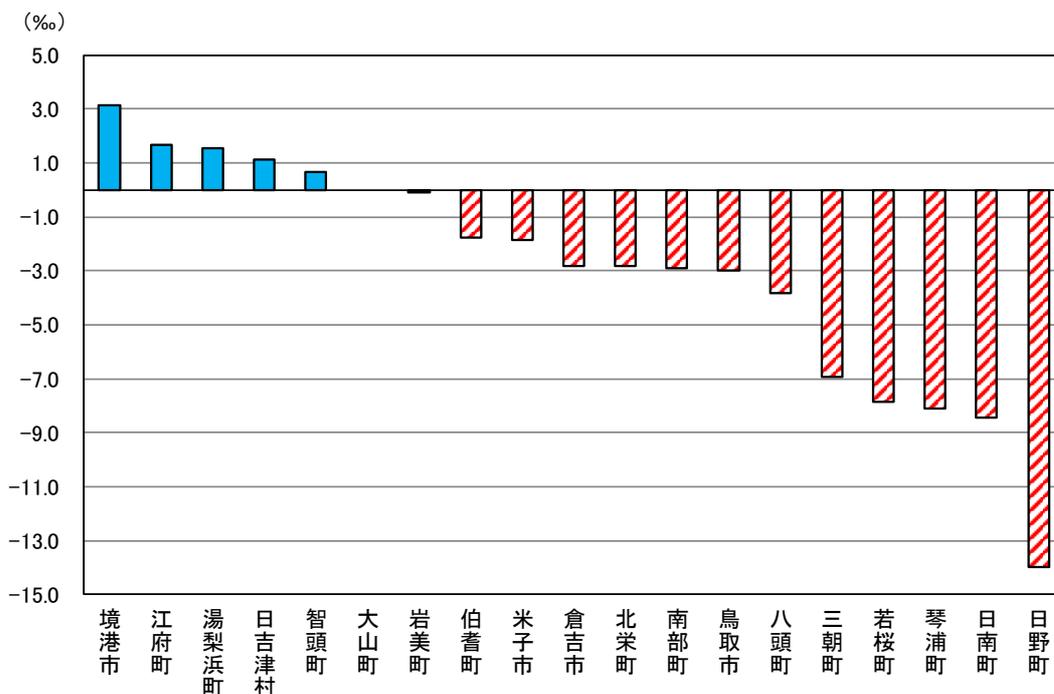


図11-2 市町村別社会増減率



(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは、鳥取市から米子市への406人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への406人（男性240人、女性166人）が最も多く、次いで米子市から鳥取市への293人（男性163人、女性130人）であった。

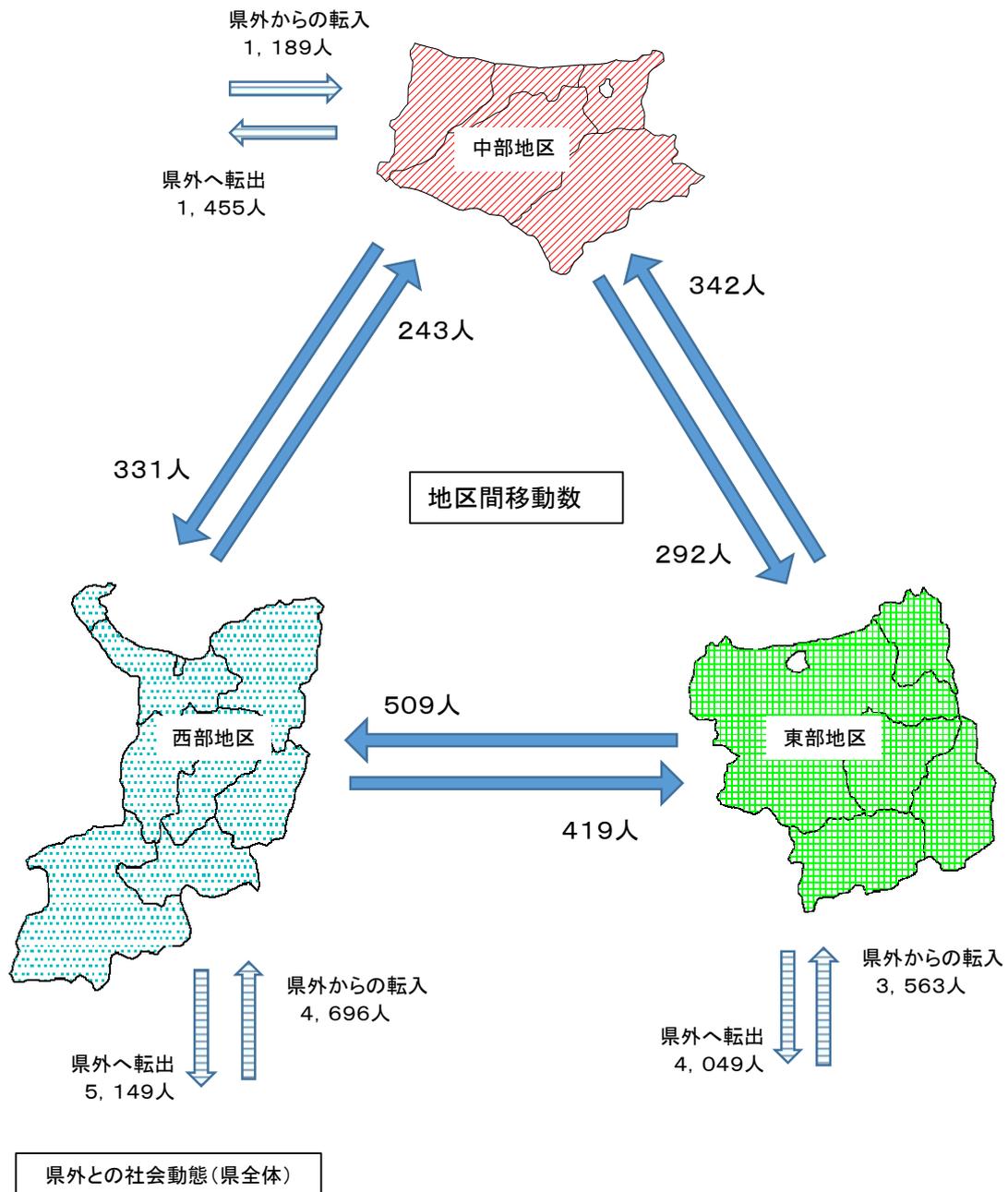
県内移動での転入超過は、米子市の180人（男性85人、女性95人）が最も多く、次いで湯梨浜町の73人（男性37人、女性36人）であった。

転出超過は、琴浦町の110人（男性40人、女性70人）が最も多く、次いで鳥取市の60人（男性62人、女性-2人）であった。

また、県内移動を地区別にみると、東部から西部への509人（男性305人、女性204人）が最も多く、次いで西部から東部への419人（男性233人、女性186人）、東部から中部への342人（男性181人、女性161人）であった。

(図12、統計表第8表)

図12 地区別社会動態(R6年1月～R6年12月)



注) 地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への704人
 県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への568人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への704人(男性351人、女性353人)、次いで外国から鳥取市への505人(男性215人、女性290人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への568人(男性301人、女性267人)、次いで鳥取市から大阪府への504人(男性266人、女性238人)であった。

転入・転出超過数をみると、転入超過は、境港市の89人(男性14人、女性75人)が最も多く、次いで江府町24人(男性11人、女性13人)であった。

転出超過は、鳥取市の 492 人（男性 287 人、女性 205 人）が最も多く、次いで米子市の 447 人（男性 216 人、女性 231 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国から 631 人（男性 272 人、女性 359 人）が最も多く、次いで大阪府から 393 人（男性 198 人、女性 195 人）、中部では外国から 238 人（男性 84 人、女性 154 人）が最も多く、次いで大阪府から 158 人（男性 80 人、女性 78 人）、西部では鳥根県から 893 人（男性 446 人、女性 447 人）が最も多く、次いで外国から 564 人（男性 223 人、女性 341 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 567 人（男性 295 人、女性 272 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 491 人（男性 244 人、女性 247 人）、中部では大阪府へ 182 人（男性 96 人、女性 86 人）が最も多く、次いで外国へ 153 人（男性 58 人、女性 95 人）、西部では鳥根県へ 747 人（男性 400 人、女性 347 人）が最も多く、次いで大阪府へ 506 人（男性 236 人、女性 270 人）であった。（表4、統計表第9表）

表4 都道府県別(外国を含む)県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
外国	1,433	505	342	115	471	830	311	176	73	270
鳥根県	1,197	704	210	113	170	1,064	568	195	101	200
大阪府	908	343	257	67	241	1,255	504	374	80	297
岡山県	757	297	258	65	137	838	305	299	85	149
兵庫県	750	332	207	46	165	974	428	255	92	199
広島県	668	260	219	55	134	769	330	279	41	119
東京都	624	245	182	52	145	1,013	357	355	69	232

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出

県外転入者、県外転出者とも 20～24 歳が最も多い。

【鳥取市】

県外転入者は、20～24 歳の 733 人（男性 408 人、女性 325 人：県全体の県外転入者総数に占める割合 7.8%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 487 人（男性 241 人、女性 246 人：同 5.2%）であった。

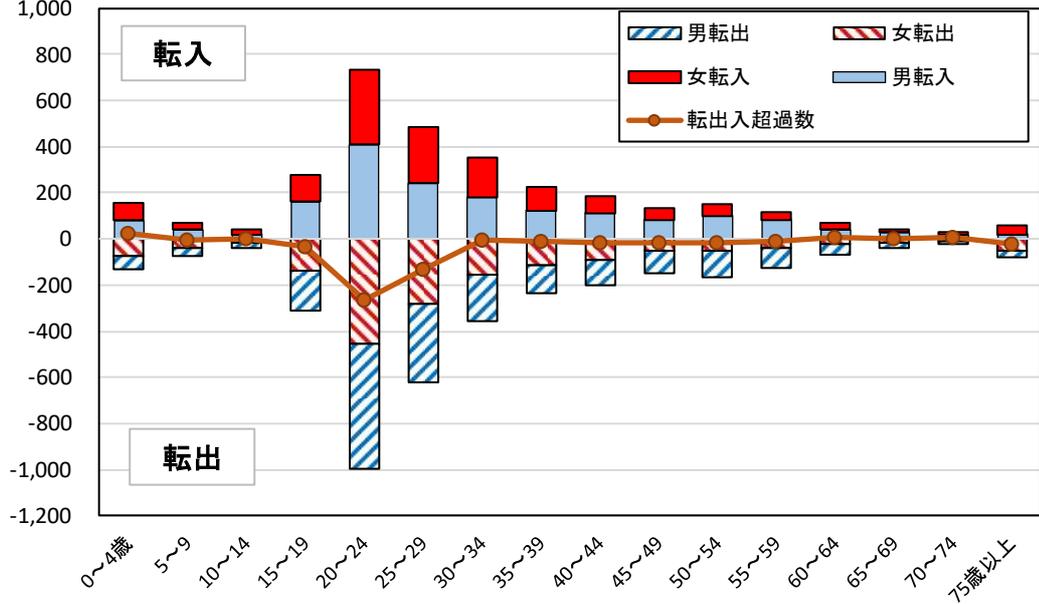
県外転出者は、20～24 歳の 999 人（男性 547 人、女性 452 人：県全体の県外転出者総数に占める割合 9.4%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 621 人（男性 340 人、女性 281 人：同 5.8%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4 歳の 25 人（男性 20 人、女性 5 人）が最も多く、次いで 70～74 歳の 8 人（男性 5 人、女性 3 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳の 266 人（男性 139 人、女性 127 人）が最も多く、次いで 25～29 歳の 134 人（男性 99 人、女性 35 人）であった。

(図13-1、統計表第10表)

(人) 図13-1 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(鳥取市)



【米子市】

県外転入者は、20~24歳の694人（男性378人、女性316人：同7.3%）が最も多く、次いで25~29歳の584人（男性294人、女性290人：同6.2%）であった。

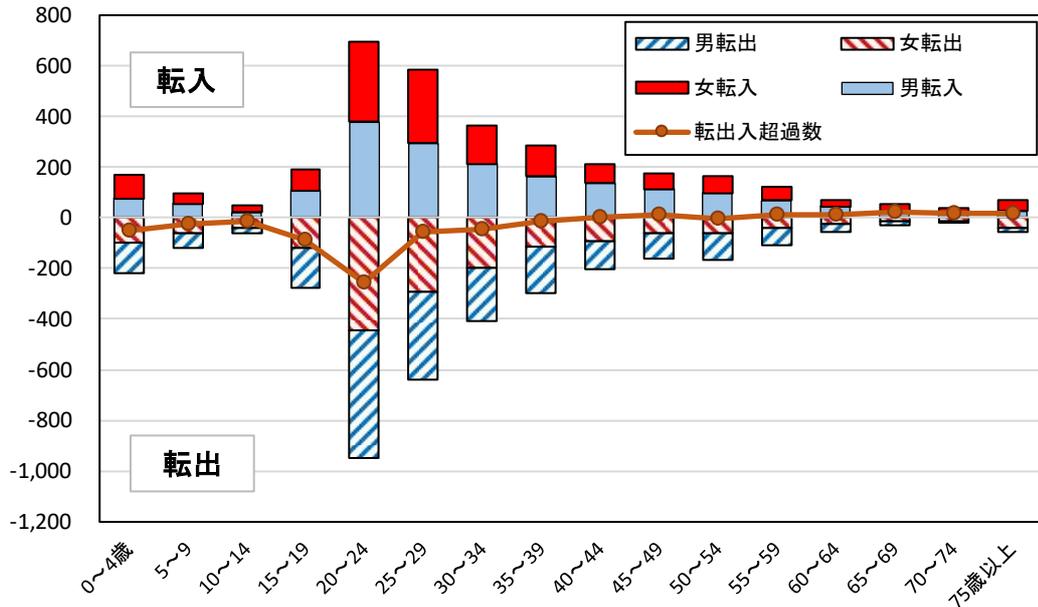
県外転出者は、20~24歳の950人（男性503人、女性447人：同8.9%）が最も多く、次いで25~29歳の641人（男性350人、女性291人：同6.0%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、65~69歳の24人（男性13人、女性11人）が最も多く、次いで70~74歳の19人（男性16人、女性3人）であった。

転出超過数は、20~24歳の256人（男性125人、女性131人）が最も多く、次いで15~19歳の86人（男性51人、女性35人）であった。

(図13-2、統計表第10表)

(人) 図13-2 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(米子市)



【倉吉市】

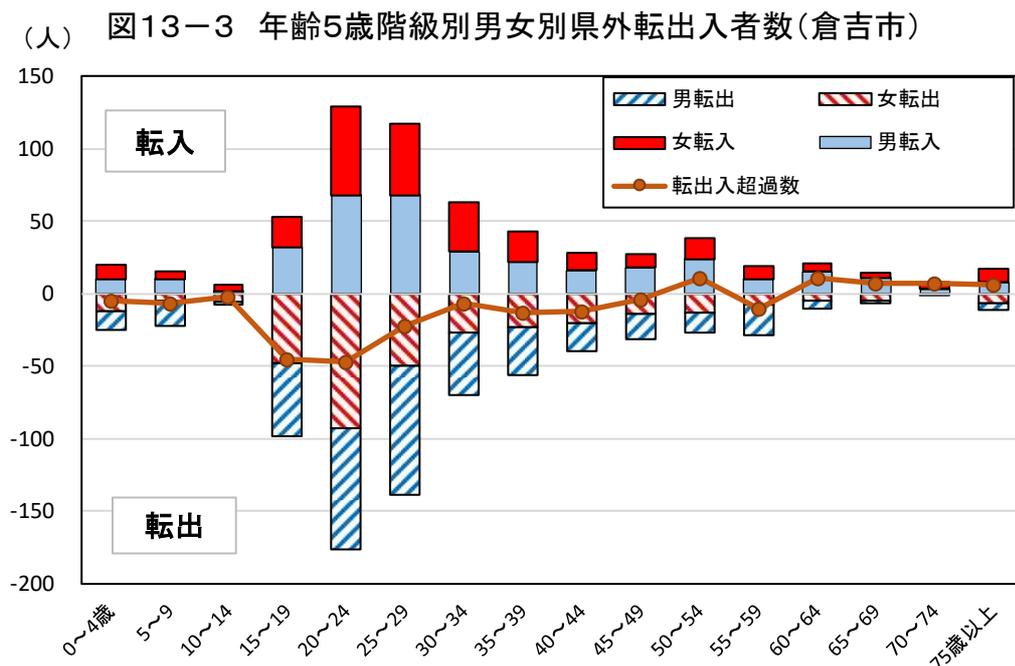
県外転入者は、20～24歳の129人（男性68人、女性61人：同1.4%）が最も多く、次いで25～29歳の117人（男性68人、女性49人：同1.2%）であった。

県外転出者は、20～24歳の176人（男性83人、女性93人：同1.7%）が最も多く、次いで25～29歳の139人（男性89人、女性50人：同1.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、50～54歳及び60～64歳の11人（男性10人、女性1人）が最も多く、次いで65～69歳及び70～74歳の7人（65～69歳：男性9人、女性-2人、70～74歳：男性3人、女性4人）であった。

転出超過数は、20～24歳の47人（男性15人、女性32人）が最も多く、次いで15～19歳の45人（男性18人、女性27人）であった。

（図13-3、統計表第10表）



【境港市】

県外転入者は、20～24歳の173人（男性90人、女83人：同1.8%）が最も多く、次いで25～29歳の158人（男性83人、女性75人：同1.7%）であった。

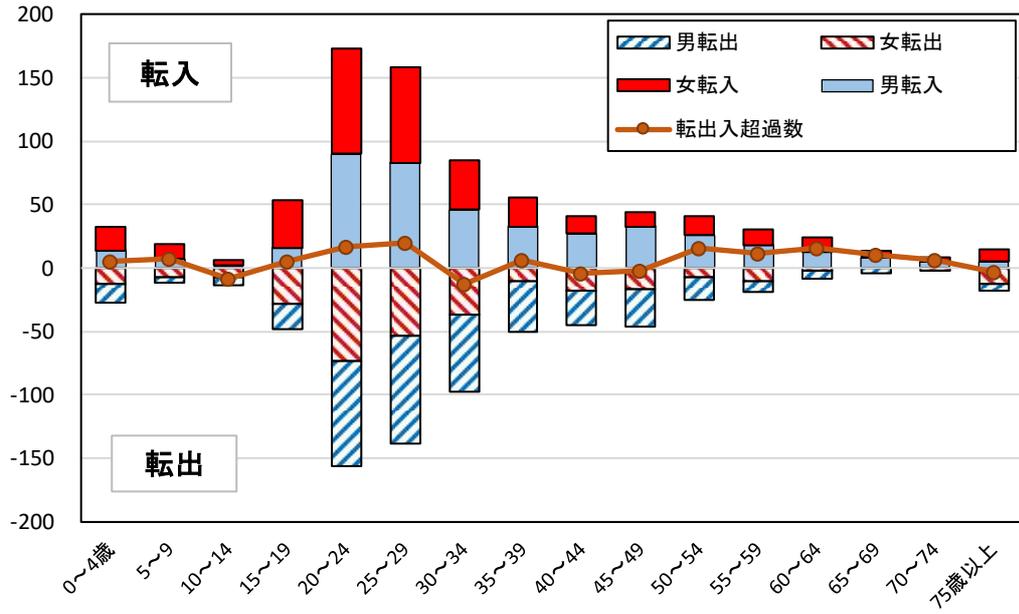
県外転出者は、20～24歳の156人（男性83人、女性73人：同1.5%）が最も多く、次いで25～29歳の138人（男性84人、女性54人：同1.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数では、25～29歳の20人（男性-1人、女性21人）が最も多く、次いで20～24歳の17人（男性7人、女性10人）であった。

転出超過数は、30～34歳の13人（男性15人、女性-2人）が最も多く、次いで10～14歳の8人（男性5人、女性3人）であった。

（図13-4、統計表第10表）

(人) 图13-4 年齡5歲階級別男女別県外転出入者数(境港市)



<参考> 外国人の人口動態

1 自然動態

- ・出生数は17人（男性8人、女性9人）
- ・死亡数は16人（男性8人、女性8人）（表5）

表5 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	17	8	9	16	8	8
1月	0	0	0	1	1	0
2月	2	1	1	1	0	1
3月	3	2	1	1	0	1
4月	2	1	1	2	1	1
5月	1	1	0	2	1	1
6月	0	0	0	1	1	0
7月	0	0	0	2	1	1
8月	1	0	1	1	1	0
9月	3	1	2	0	0	0
10月	1	0	1	1	0	1
11月	2	1	1	2	1	1
12月	2	1	1	2	1	1

2 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は108人（男性48人、女性60人）
- ・転入が最も多いのは鳥取市の22人（男性7人、女性15人）
- ・転入超過数は、倉吉市の12人（男性4人、女性8人）が最も多く、転出超過数は、琴浦町の16人（女性16人）が最も多い。

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,821人（男性866人、女性955人）で、県外転出者数は1,261人（男性639人、女性622人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の591人（男性301人、女性290人）で、次いで米子市の478人（男性232人、女性246人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の438人（男性235人、女性203人）で、次いで米子市の310人（男性161人、女性149人）
- ・転入超過数は、米子市の168人（男性71人、女性97人）が最も多く、転出超過数は、南部町の6人（男性1人、女性5人）が最も多い。（表6）

表6 市町村別社会動態(外国人)

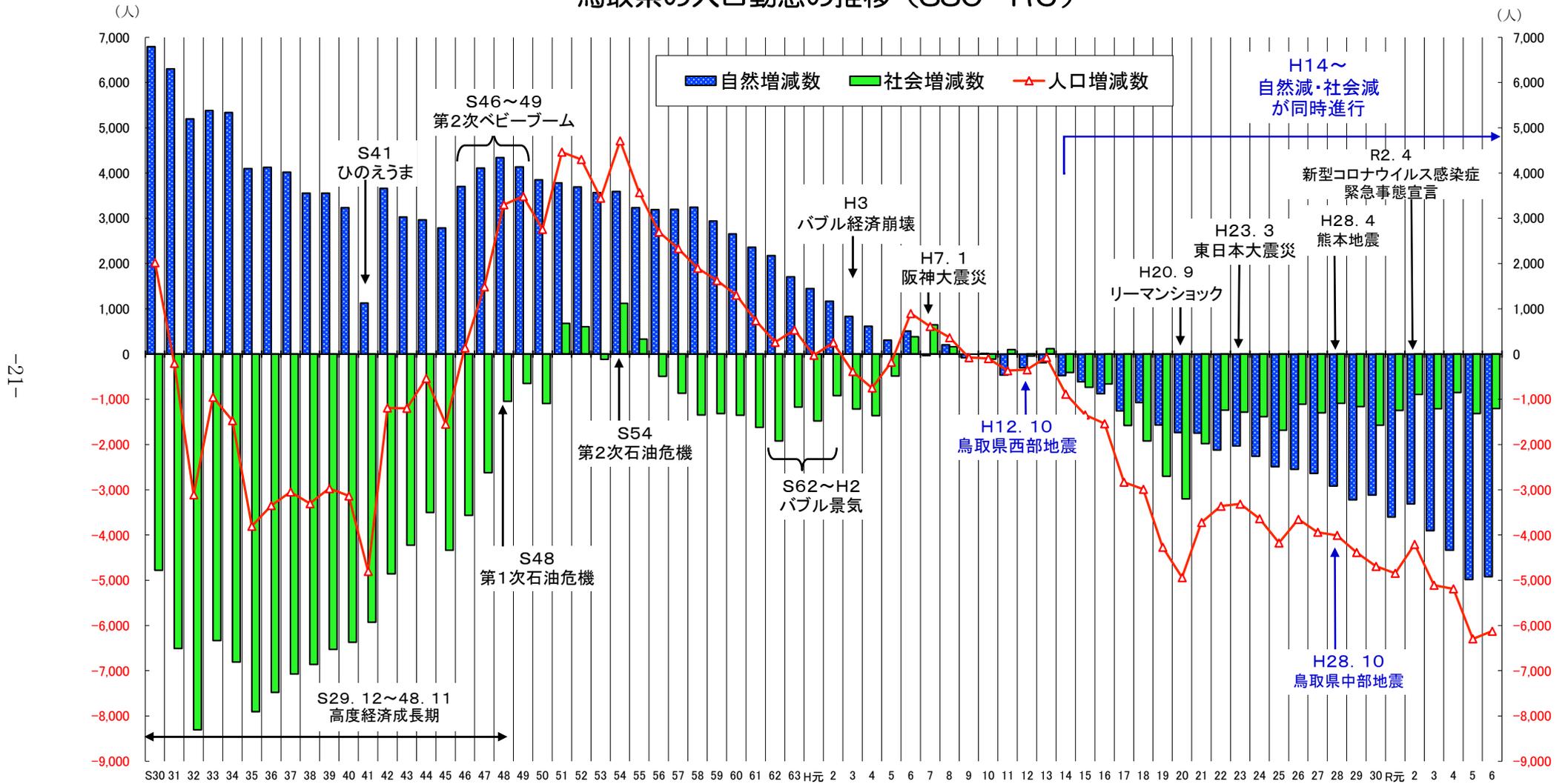
(単位:人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,821	866	955	1,261	639	622	560	108	48	60	108	48	60	0	560
東部地区	712	354	358	523	279	244	189	37	11	26	33	18	15	4	193
中部地区	302	138	164	230	109	121	72	29	14	15	34	9	25	-5	67
西部地区	807	374	433	508	251	257	299	42	23	19	41	21	20	1	300
鳥取市	591	301	290	438	235	203	153	22	7	15	26	17	9	-4	149
米子市	478	232	246	310	161	149	168	21	12	9	27	15	12	-6	162
倉吉市	115	64	51	79	44	35	36	19	10	9	7	6	1	12	48
境港市	199	73	126	99	41	58	100	8	5	3	2	1	1	6	106
岩美町	47	26	21	37	21	16	10	9	1	8	2	0	2	7	17
若桜町	12	0	12	17	5	12	-5	3	0	3	1	1	0	2	-3
智頭町	49	19	30	23	11	12	26	2	2	0	4	0	4	-2	24
八頭町	13	8	5	8	7	1	5	1	1	0	0	0	0	1	6
三朝町	14	11	3	19	9	10	-5	0	0	0	1	1	0	-1	-6
湯梨浜町	26	14	12	31	14	17	-5	3	0	3	1	0	1	2	-3
琴浦町	117	42	75	82	38	44	35	4	2	2	20	2	18	-16	19
北栄町	30	7	23	19	4	15	11	3	2	1	5	0	5	-2	9
日吉津村	1	1	0	3	2	1	-2	3	2	1	0	0	0	3	1
大山町	56	33	23	49	21	28	7	3	0	3	5	4	1	-2	5
南部町	29	16	13	35	17	18	-6	3	0	3	1	0	1	2	-4
伯耆町	16	9	7	5	4	1	11	4	4	0	2	0	2	2	13
日南町	12	10	2	5	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7
日野町	8	0	8	0	0	0	8	0	0	0	4	1	3	-4	4
江府町	8	0	8	2	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	6

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(-)の場合は、転出超過を示す。

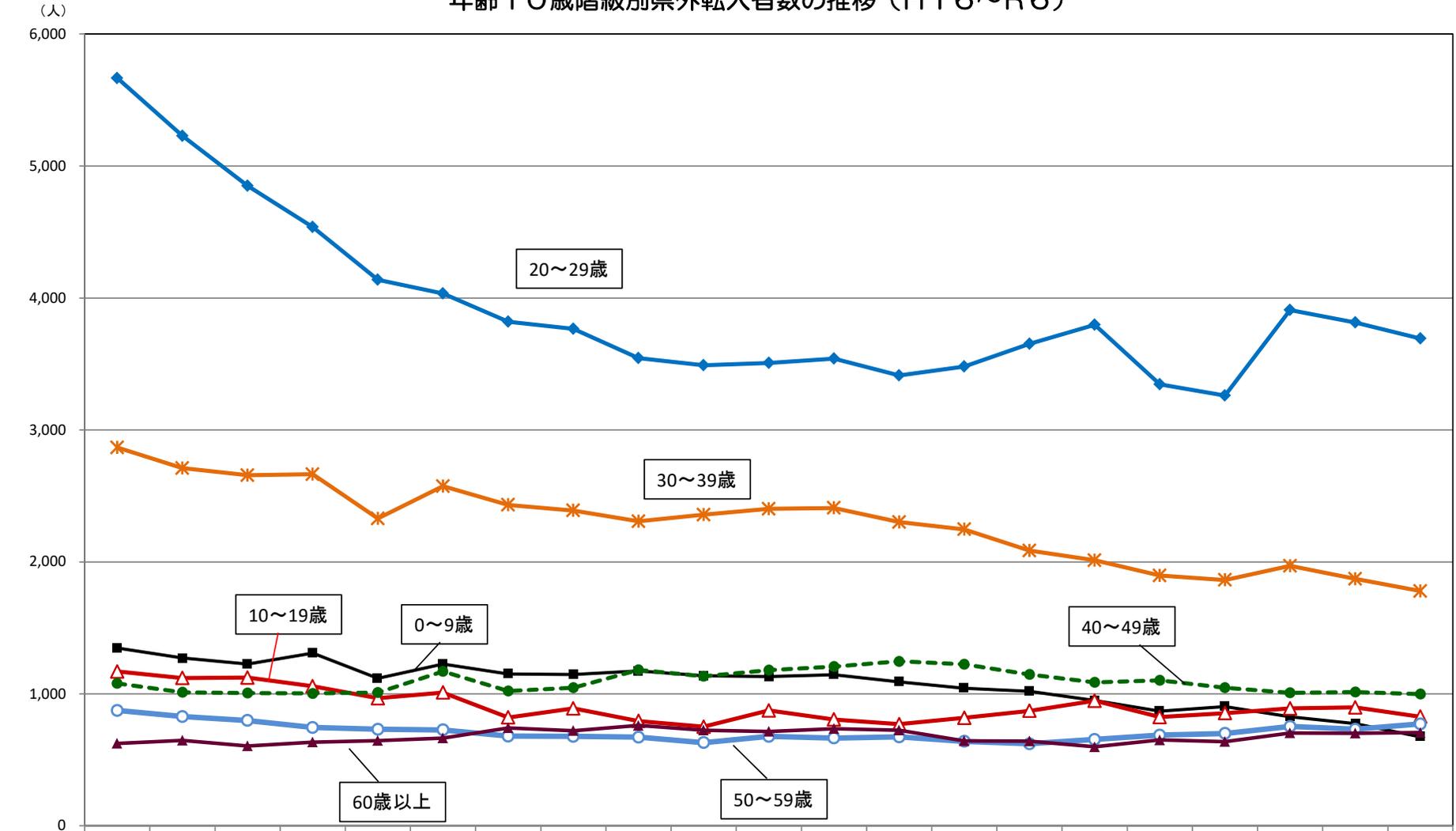
注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。

鳥取県の人口動態の推移 (S30~R6)



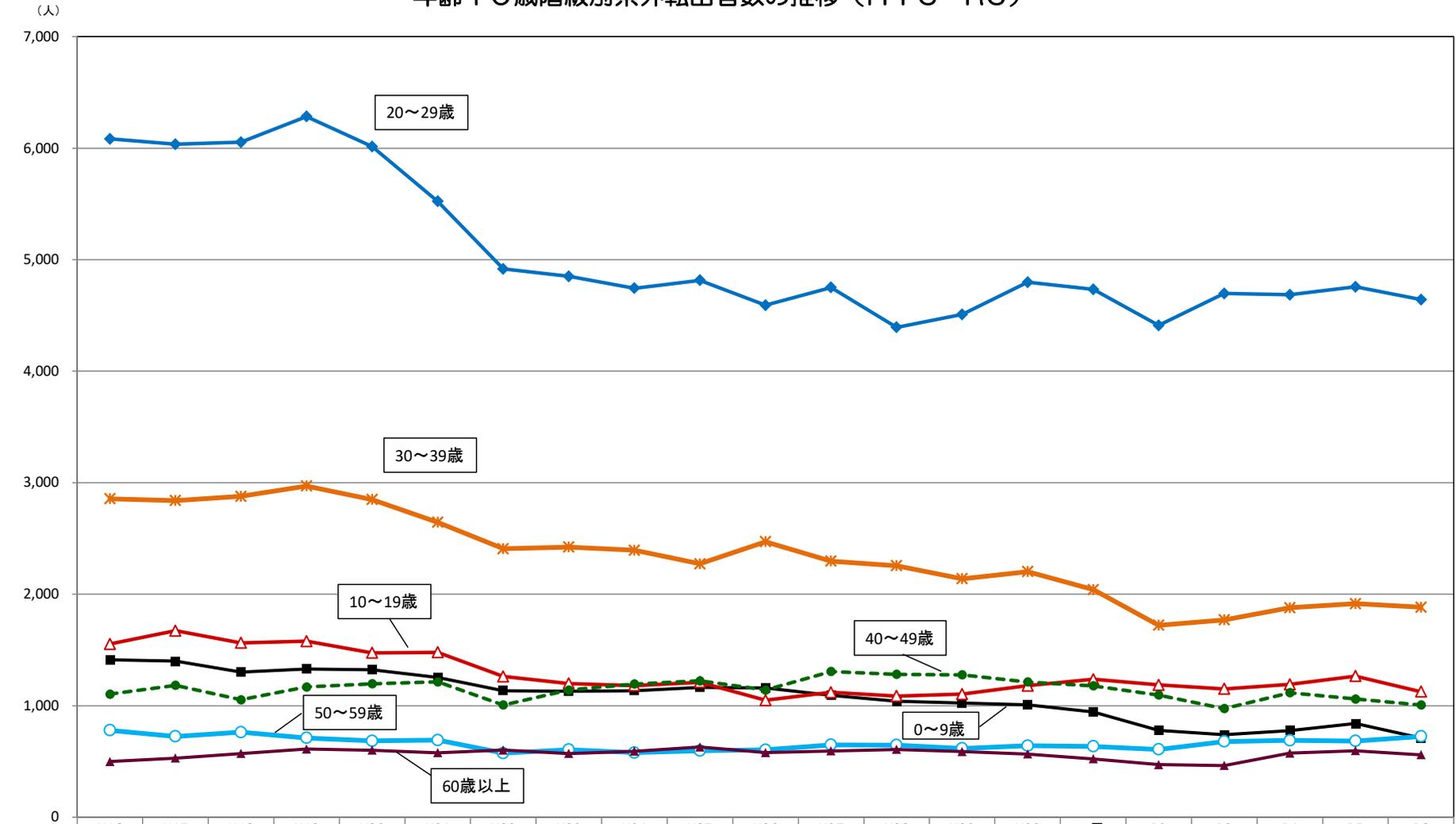
注) グラフは、暦年 (1月~12月) の値

年齢10歳階級別県外転入者数の推移（H16～R6）



	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
0～9歳	1,346	1,271	1,225	1,308	1,118	1,226	1,150	1,146	1,174	1,136	1,131	1,144	1,091	1,042	1,020	949	868	903	826	775	674
10～19歳	1,169	1,120	1,123	1,058	967	1,010	821	890	794	750	874	806	770	818	871	947	824	854	890	897	827
20～29歳	5,667	5,228	4,851	4,537	4,139	4,034	3,820	3,767	3,544	3,491	3,507	3,541	3,413	3,480	3,652	3,797	3,346	3,260	3,908	3,814	3,693
30～39歳	2,867	2,710	2,656	2,664	2,329	2,574	2,432	2,389	2,307	2,358	2,402	2,409	2,302	2,247	2,085	2,012	1,897	1,863	1,970	1,871	1,778
40～49歳	1,079	1,012	1,006	1,003	1,009	1,169	1,021	1,046	1,181	1,134	1,179	1,206	1,246	1,224	1,146	1,087	1,103	1,046	1,008	1,013	998
50～59歳	873	828	798	745	731	727	679	677	672	630	678	665	674	640	622	654	687	700	753	732	772
60歳以上	624	647	605	634	645	665	742	720	759	725	714	736	725	643	641	597	650	637	703	701	706

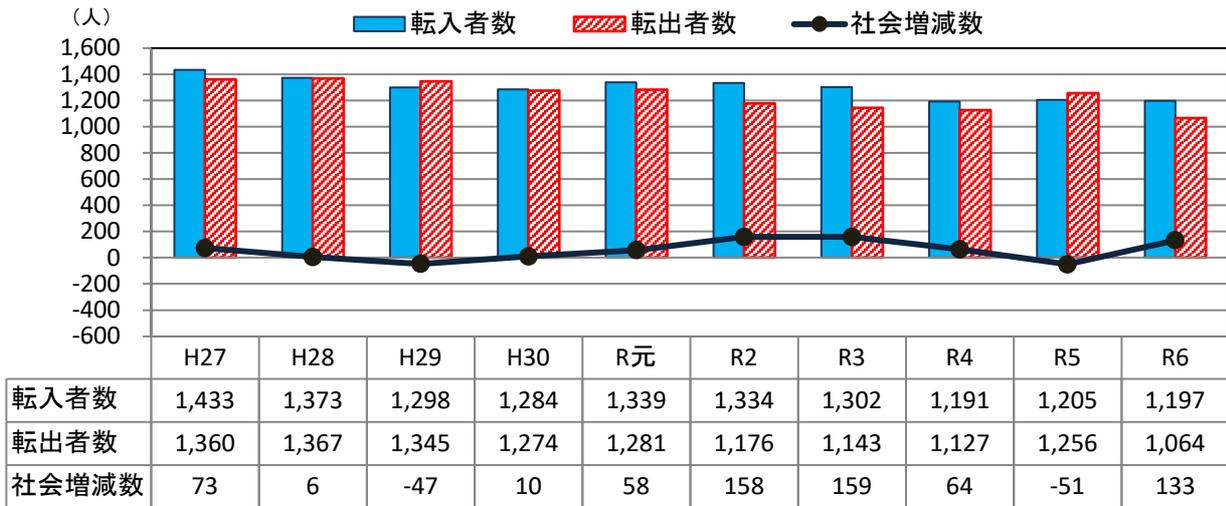
年齢10歳階級別県外転出者数の推移（H16～R6）



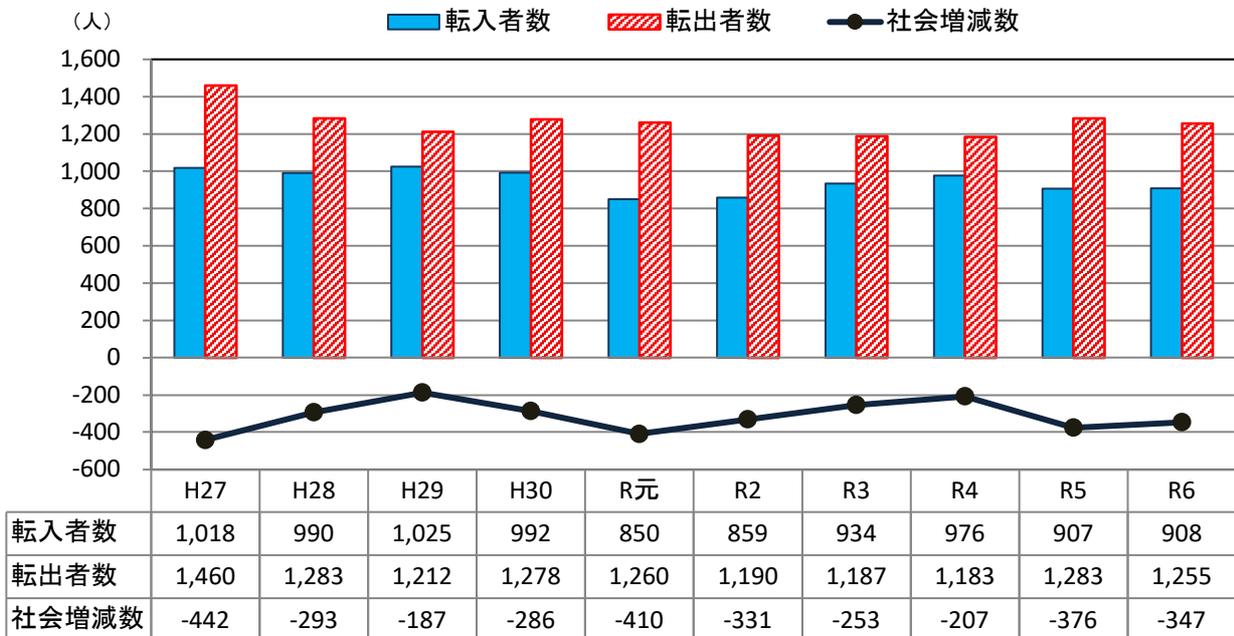
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
0～9歳	1,412	1,399	1,302	1,330	1,321	1,253	1,134	1,129	1,134	1,165	1,160	1,092	1,041	1,025	1,008	944	779	739	777	840	710
10～19歳	1,553	1,672	1,563	1,578	1,474	1,478	1,262	1,199	1,180	1,210	1,048	1,120	1,087	1,104	1,179	1,237	1,186	1,150	1,191	1,266	1,126
20～29歳	6,083	6,036	6,054	6,284	6,015	5,523	4,917	4,851	4,744	4,815	4,592	4,751	4,394	4,509	4,798	4,734	4,410	4,697	4,686	4,756	4,642
30～39歳	2,856	2,840	2,878	2,970	2,849	2,645	2,408	2,423	2,394	2,272	2,471	2,296	2,255	2,139	2,203	2,041	1,721	1,769	1,878	1,915	1,883
40～49歳	1,104	1,183	1,053	1,168	1,196	1,214	1,007	1,140	1,194	1,223	1,140	1,306	1,281	1,277	1,213	1,178	1,095	974	1,116	1,060	1,007
50～59歳	779	725	762	710	684	691	574	605	579	596	604	649	646	616	641	635	607	679	689	683	725
60歳以上	499	530	571	611	601	578	602	571	591	629	579	593	608	588	567	522	471	463	574	596	560

県外転出入者数の推移（令和6年移動者総数上位6都道府県）

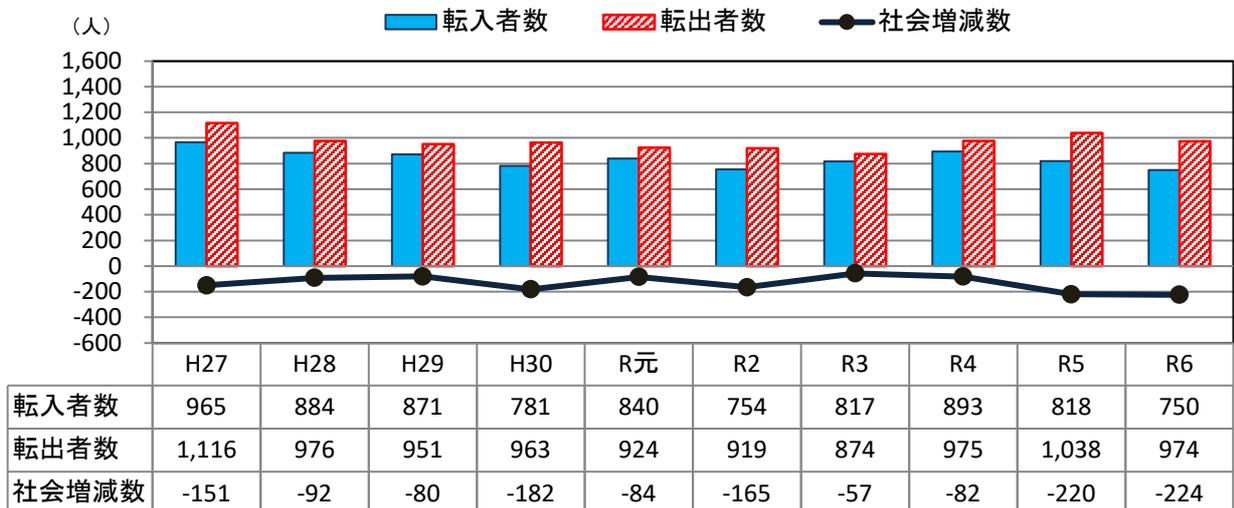
島根県からの転入、島根県への転出



大阪府からの転入、大阪府への転出

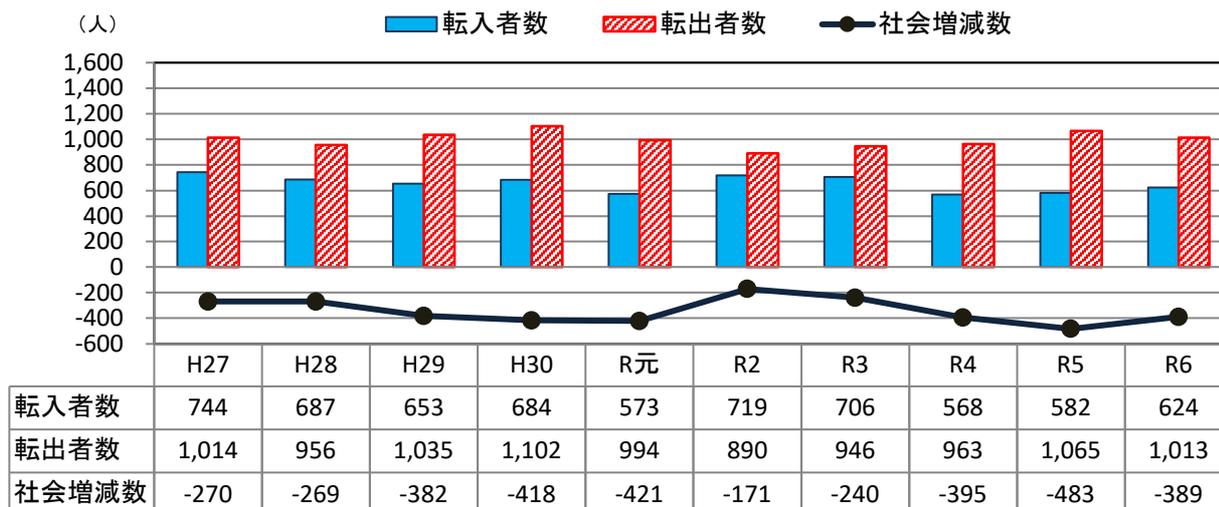


兵庫県からの転入、兵庫県への転出

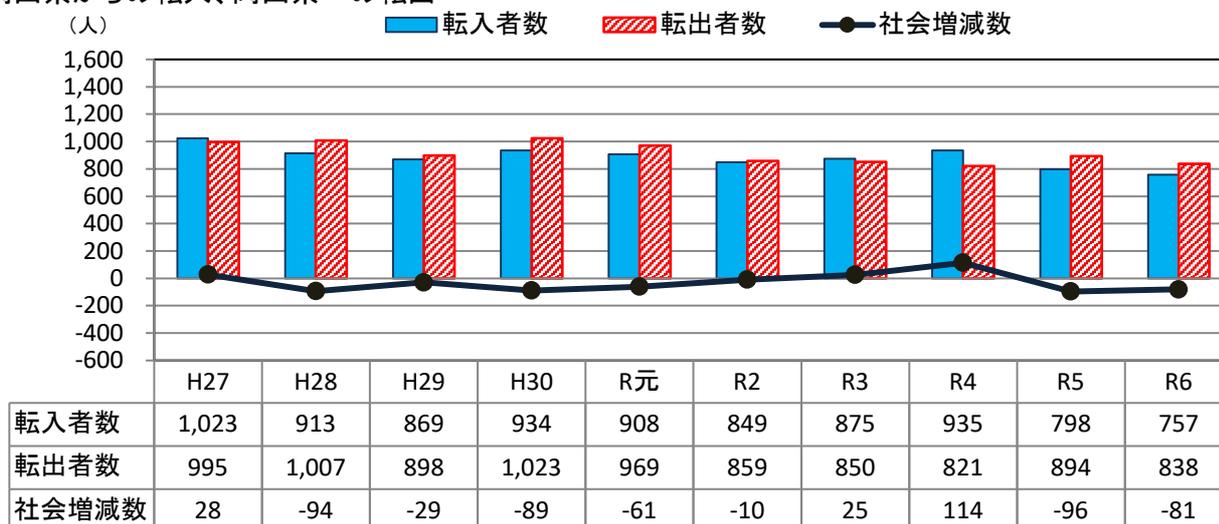


注) 移動者総数＝転入者数＋転出者数

東京都からの転入、東京都への転出



岡山県からの転入、岡山県への転出



広島県からの転入、広島県への転出

